

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 大久保 亮

主査 教授 橋野 聡
審査担当者 副査 教授 石田 晋
副査 教授 久住 一郎
副査 教授 佐々木 秀直

学 位 論 文 題 名

統合失調症における幼少期ストレス、人格傾向が
抑うつ症状と自殺念慮・自殺企図に与える影響

(The influence of childhood abuse and personality traits on depressive symptoms, idea of suicide and suicide attempts in individuals with schizophrenia)

本研究では、統合失調症患者において、人格傾向が幼少期ストレスと抑うつ症状を媒介するという仮説を検討した。高い損害回避、低い自己志向、低い協調が、幼少期ストレスと抑うつ症状の関係を媒介しており、その結果から、幼少期ストレスが、人格傾向の形成に関与し、抑うつ症状の増加に影響することを示唆された。

審査にあたり、副査の佐々木教授から幼少期ストレスの統合失調症発症への影響について質問があり、申請者は、「幼少期ストレスは発症年齢と負の相関があることが先行研究から示されており、本研究のデータもそれを支持した。」と回答した。副査の石田教授からは幼少期ストレスの定義について質問があった。申請者は、「childhood abuse は一般的に児童虐待と訳されるが、本研究では、幼少期の否定的な体験を、正常から異常まで連続したものと評価しており、幼少期ストレスと表現した。」と回答した。さらに、主査の橋野教授からは、質問紙への回答の信頼性について質問があった。申請者は、「質問紙の回答については、信頼性係数を算出し、顕著な問題がないことを確認している。」と回答した。最後に副査の久住教授からは、病態研究への示唆について質問があった。申請者は、「本研究は幼少期ストレスが情動面の障害を介して統合失調症の発症を来たすという仮説を示唆するものであり、これを検討することも今後の課題としたい。」と回答した。

この論文は、統合失調症患者における環境が病態に与える影響に関して初めて明らかにしたもので、今後の病態の解明において更なる飛躍が期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。